

第1回高島市地域包括支援センター運営協議会 議事録（要旨）

| | |
|-------|---|
| 会議名 | 第1回 高島市地域包括支援センター運営協議会 |
| 開催日時 | 令和6年7月18日（木）午後1時30分から午後3時30分まで |
| 場所 | 新旭公民館 2階 視聴覚室 |
| 委員出席者 | 永田会長、山本委員、上村委員、井上委員、都井委員、川島委員、朝香委員、越智委員、八坂委員、森本委員、西村委員、中清水委員、山本委員、青谷委員（順不同） |
| 委員欠席者 | 本多委員、伊妻委員、谷口委員 |
| 事務局 | <p>【健康福祉部】 部長 山本、次長 加藤</p> <p>【高齢者支援課】 主監齊藤、参事上原、主任保健師北村・橋本、主任（社会福祉士）越谷・植村、保健師前川、主査（社会福祉士）南条</p> <p>【介護保険課】 課長 井上</p> <p>【あいりんつむぎ地域包括支援センター】 仁賀事務長、田中管理者</p> <p>【高島・安曇川地域包括支援センター】 白井管理者</p> |
| 会議次第 | <p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和5年度事業実績報告および決算報告（案）について</p> <p>① 高島市地域包括支援センター</p> <p>② あいりんつむぎ地域包括支援センター</p> <p>(2) 令和6年度事業の方向性について</p> <p>(3) その他</p> <p>3. 閉会</p> |
| 会議資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度第1回高島市地域包括支援センター運営協議会次第 ・ 資料1 令和5年度 高島市地域包括支援センター 事業実績報告 ・ 資料2 令和5年度 高島市地域包括支援センター 決算見込みについて ・ 資料3 令和5年度 あいりんつむぎ地域包括支援センター 収支決算書（案） ・ 資料4 令和6年度 高島市地域包括支援センター運営方針 ・ 資料5 あいりんつむぎ地域包括支援センター 事業計画 ・ 資料6 高島・安曇川地域包括支援センター 事業計画書 ・ 資料7 令和6年度 高島市地域包括支援センター 重点事業 ・ 参考資料1 令和6年度 地域支援事業 ・ 参考資料2 高島市基幹型、委託型地域包括支援センター役割分担表 |

1. 開会 加藤次長より開会
委員出席者数の確認 17名中14名の出席により、本会議は成立。
永田会長挨拶

2. 報告事項 (1) 令和5年度事業実績報告および決算報告

| | |
|--------|--|
| 事務局 | 資料1にもとづいて報告 |
| 委員 | 短期集中型通所Cサービスは今後増やしていくという方向性でいいのか？市の考えを聞かせていただき、リハビリ職に共有したい。 |
| 事務局 | C型サービスは、骨折などで一時的に日常生活が少し困難になった方に、3か月間集中的にリハビリに取り組んでいただき、地域で高齢者を支える担い手になっていただきたいという事業の目的になってる。今年度は事業を実施しやすくなるよう、実施要領の見直しや記録様式の見直し、個別の医療機関に事業の説明に市の担当者でまわる予定をしている。 |
| 委員 | 地域リハビリテーション活動事業支援事業について、年々増えていると思いますが、今後も増やす考えですか。 |
| 事務局 | 個別支援のニーズは増えている。あしたの体操もフォローには行っていただくことで継続できている。できれば増やしていきたいと思っている。 |
| 委員 | リハビリ職も病院に勤務しているものが多いが、できるだけ地域に入れるような体制作りをしたいと考えている。決算報告について、昨年度との増減はどうか。 |
| 事務局 | 増えている項目は「包括的」のところで、委託に関する部分は増えている。来年度もこの項目は増えると考えているが総額では540万円ほど少なくなっている。 |
| 委員 | リハビリの管理費があるので、様々な関わりで元気高齢者が増え、必要なサービスがあり、不要なサービスは減らしていけるようにというところで、給付であったりという部分が精査できたらと思ったので聞かせていただいた。 |
| 委員（会長） | 高島市は健康寿命がすごく長い。これは全国的にいてもすごく長いのではないかと思う。リハビリ職が関わっているという理由もあると思いますが、男性の健康寿命がすごく長いです。これは何か理由がありますか？ |
| 事務局 | 男性の健康寿命は確かに長いのですが、介護予防教室に参加していただいている方はごく一部ですので、地域で例えばグランドゴルフをしていたり、田んぼとか畑とか、そういったことで生きがいとしていくつになっても頑張っておられる方がいらっしゃるの、そういったことが要因なのかと考えています。 |
| 委員（会長） | もしかしたら、専門職の皆さんが頑張っておっしゃってくださってるのも影響しているのではないかと思う。滋賀県全体でも健康寿命高く、その中でも高島市が非常に高いという特徴がありますのできっといろんな要因があるのではないかと思います。 |
| 委員 | あしたの体操をしている団体に対してのフォローアップについて、自分達もサロンしているのですが、自分達から申請しないとフォローアップを受けられないのですか。また認知症初期集中支援事業に関わる専門職を教えてください。 |
| 事務局 | あしたの体操のフォローアップ事業については、去年DVDを貸与している「あしたの体操」 |

| | |
|--------|--|
| | <p>の活動している団体に対して、アンケートとしてフォローアップを希望するかという案内をしました。そこで希望のあった団体にフォローアップをしています。その他でも、出前講座などでご希望があればリハビリ職の派遣をしています。</p> <p>アンケートはグループのリーダーに対して送らせていただきました。希望されるということであれば、すぐ調整させていただきます。</p> |
| 事務局 | <p>認知症初期集中支援事業にかかわっている専門職は、高島市内の認知症相談医の先生と、国の認知症初期集中チーム員研修を受講した保健師と社会福祉士で構成して対応しています。</p> |
| 委員 | <p>色々な通いの場を支援されている事業というのを初めて知りました。高齢者にとって、自分のやりがいとか、生きがいとか、行ける場があるとか、いろんな人との繋がりを支えにされている方はとてもたくさんいらっしゃる、目的があるので行ける、体は丈夫でもやっぱり行きたいところがあってこそやりがいに繋がると思うので、こういった場を支えて行くのはとても大事だと思いながら聞かせていただいた。</p> <p>ただ、私の周りではいろんな声を聞く中で、高島市は交通の便が非常に良くないので、車に頼っている方が結構多くて、運転免許を返納された後のニーズ、なかなか自分の行きたいところに思うように行けないとか、それがあって返納しにくいのか、そんな声もお聞きします。いろんな高齢者の事故もマスコミなどで聞く中で、免許返納した後の自立を考えた時に、免許返納された方へのアプローチといいますか、何かしら繋がってというものをもっておられるのかどうかとか、そういった方の今後を考えた時に何が大切であると感じていらっしゃるのかとか、そのあたりの意見を聞かせてください。</p> |
| 委員（会長） | <p>特にこういった地域では免許返納後の移動手段と言うのは、すごく大事なポイントですし、社会参加にも影響することだと思いますので、高島市として何か考えていることがあるのかどうかお伺いしたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>「生活支援体制整備事業」の高島市全体のコーディネートをしている第1層で、昨年度から高島市の高齢者の移動支援を考えて、協議体会議を設置して、移動支援に関する勉強会をしたり、今は車に乗っている人がほとんどですが、車がなくなった場合にどういうふうに移動するかイメージを持ってもらえるよう、高島市の公共交通機関、バスであったりとかを上手く使って目的地に実際に行けるかなどのシュミレーションをしたりして、少しずつ自分達事として考えてもらうということで進めています。移動支援について考えていく体制作りと支援できる人っていうのを今後増やしていけたらと考えています。</p> |
| 委員（会長） | <p>おそらくこれから非常に大きな課題になる。滋賀県知事が交通問題について、交通税というのを検討しているとニュースになっていました。滋賀県全体で考えていかないといけない問題かと思います。</p> |
| 委員 | <p>決算を見せていただく中で、答えていただくというより、一緒に考えてもらいたいという投げかけになります。例えば、家族介護継続支援のオムツの分ですが、予算額 850 万円で、決算額 680 万円、残りが 160 万円ほどあると、その残った部分が総額の中で見ると大きな金額になるかと思います。朽木地域含め過疎地域の中で、訪問看護・介護などの支援ができていないという問題があります。遠い地域になると、移動にかかる時間とか経費とかいう問題もあって、どうしても近いところでの支援で、効率よくというのを優先してしまうというところ</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>ろがあります。介護保険だけで考えると、どうしてもそのような偏りが出て、遠い地域に支援に行く事業者などに対する助成などを、一度検討していただけないかというのが一つです。</p> <p>もう一つ、社協でされている生活支援体制整備事業の中でも朽木地域の問題を取り上げていただいている中で、高島市民病院に車がないのでタクシーで行くと、片道1~2万円かかるという話を聞く。やはりそこに対しての、助成というか何らかの支援があってもいいのではないかと思います。</p> <p>この予算と決算のところを見た中で、そういった制度にしていくのは難しいのかもしれませんが、考えていただけるとありがたいと思います。そういうことを一緒に考えていけるような場を作ってもらえたり、検討もされているとは思いますが、一歩踏み出していただけるとありがたいと思います。</p> |
| 委員（会長） | <p>事業所が行くのも、ご本人が行くのも大変、そこに何らかの手当や支援が必要なのではということですが、事務局お願いします。</p> |
| 事務局 （井上課長） | <p>介護保険事業計画策定の際に、同様の課題でお話をいただいていた。特に朽木地域と今津西地域の方、そしてマキノの方が立地的に課題があるということは事務局でも重々承知しております。介護保険事業計画の3年間の中で、そういった方々、地域の方々への支援、事業所への支援を検討していかなければならないという問題意識を持っていますので、一緒に考えていけたらと思います。</p> |
| 委員（会長） | <p>地域包括運営協議会だけではなく、介護保険計画であるとか地域福祉計画であるとかこの場だけではなく、色々なところで考えていく必要があるのではないかと思います。</p> |
| 委員 | <p>通所型サービスCの話が先ほど川島委員からもあったのですが、質問が2点です。短期集中のトレーニングというところで、3~6カ月終了後のフォローはあるのでしょうか？2点目が、終了後に地域の担い手になってもらいたいという考えということも今お聞きしたのですが、その後地域の担い手となってほしいという思いがその人に伝わっているのか。つなぎはしっかりできているのかということをお聞きしたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>先ほども事業を受けにくいという話がありましたが、今年度は実施要領を改訂させていただきました。改訂のポイントは、サービス利用開始前に、終了後にどんな生活を送りたいのかをしっかりとケアマネジャーやリハビリの先生と共有する会議を持つこと、最終卒業という段階でも、どんな生活を送るか、どんな活動をしていくかというところを本人・関係者みんなが話合いを持つという流れにしていくことに変更しています。生活支援コーディネーターの力も借りて地域に帰っていただけたらと考えています。</p> <p>利用される方が少ないので、医療機関をまわり利用者を増やすことを今年度目標にしています。</p> |
| 委員（会長） | <p>生活支援コーディネーター、社会福祉協議会とうまく連携していただけて進めていけるといいと思います。</p> |
| 委員 | <p>あいりんつむぎ地域包括支援センターの収支決算を見る限り、中々厳しいと思います。今後は指定介護予防支援を直接居宅介護支援事業所が受けるという中で、だんだん徐々にこの辺の収入も減ってくるのではないかと思います。</p> |

| | |
|------------------------|---|
| | <p>また人件費がかなりあがっているので、今後の運営が厳しいのではないかと思います。そのあたりを聞かせていただきたいと思います。</p> <p>また、4月から南部に新しい地域包括支援センターができたので、運営が始まって数カ月になりますけども、活動されてからの感想なども聞かせていただけたらと思います。</p> |
| 委員 | <p>歳入歳出の部分で、今後人口減少でだんだんと変わってくる可能性も考える中で、やはり人件費だけは下がっていかないのが、今回も見込み額からすると700万円超えて決算がギリギリだと思うので、このあたりの運営状況とか、最終的には委託費が多いか少ないかになってくるのですが、そのあたりもどうでしょうか。数字を見る限りは厳しいと思うので、ご意見を聞かせていただけたらと思います。あいりんつむぎ地域包括支援センターははじめられて数年が経っております。そのあたりの運営的なところの所感も聞かせていただけたらと思います。</p> |
| 事務局（あいりんつむぎ地域包括支援センター） | <p>退職が重なり、ケアマネジャが一人退職が決まっていたので、二人重なって勤務してもらったり、相談支援について困難事例も増えており時間内に終わらない業務も増えており、人件費が下がらないということがあります。</p> |
| 委員（会長） | <p>ありがとうございました。委託包括ですが、委員も心配をしてくださっているところもあるのかと思いますので、委託費が適当かどうかでも大事な問題だと思いますので、それも含めてご質問いただいたのかと思います。</p> <p>高島・安曇川地域包括支援センターは、始まってどうかというのを簡単にお知らせください。</p> |
| 事務局（高島・安曇川地域包括支援センター） | <p>事業所は近江高島駅と高島市民病院の近くというところでどちらからも徒歩1分という好立地のところにあります。4月からの相談の方法別を見ますと、電話での相談が約66%となっており、かなり電話相談が多いという数字が出ております。次いで訪問が25%ほど、窓口相談も立地の関係からもう少し増えるかなと思っていたのですが、現在は8%ほどとなっています。お越しいただくよりも、電話や訪問させていただくような形になっていて、電話相談も昨年度との比較ができませんが、多かったという印象です。</p> <p>4月のオープンまでには新聞折り込みをいれさせていただきましたのと、オープンまでに市役所の方が訪問などで宣伝していただいた事が、市民の方からの相談に繋がっていると思います。傾向ですが、全相談件数のうち安曇川地域が76%ということで、安曇川と高島の人口比率よりもまだ相談件数は10%以上増えている数字になっています。旧の在所よりも新しい在所や、特徴としては独居、または高齢者世帯等々がかなりの割合を閉めているという実態になっております。</p> <p>相談の中身については、介護に関することが40%、次いで健康状態16%、認知症に関する相談が8.5%と続いており、虐待の対応につきましても6.3%となっています。先週も今週も急な相談がはいったりして、このような数字になっています。実態としては月に100件ぐらいいはこのような相談がはいってきており、特に安曇川が多く、独居高齢者の相談が多い傾向にあると感じています。</p> |

3. 令和6年度高島市地域包括支援センターの重点事業（事務局から報告）

| | |
|--------|---|
| 委員 | <p>この3～5月にかけて、実際に虐待を受けて施設入所の相談を受けることがありました。その中で、家族というか虐待をされている方は「認知症」について理解していないというところが大部分ありますし、「診断はないけど、知的な障害があるのではないかと疑うようなケースもあります。</p> <p>高島市外からも相談を受ける中で、そういった重複した障がいをお持ちであるとか、地域で見えてない方が「虐待」という形であがってきて、うちの施設に相談があるという事実があります。ステップアップ講座やフォローアップ講座などで認知症サポーターのフォローアップをして、認知症に理解のある方を増やして、近所の方からの相談を増やすとか、こういった活動を地道にしていくしかないかと思えます</p> |
| 委員（会長） | <p>認知症で行方不明になられる方がたくさんいらっしゃるというのがこの間もニュースになっていましたけれども、そういったときに声をかけられる市民の方が一人でも多くいらっしゃるというのは大変大事な事だと思います。</p> |
| 委員 | <p>私自身、先だって免許証の書き換えに行きました。高齢者になりますので、認知機能検査を受けることになりました。病院の先生に認知症検査をお願いしました。私は専門医で認知症検査を受けるべきだと思います。それをうけることで認知機能がどこまで低下しているかというのがはっきりします。検査だけではなく、認知症検査の結果、例えばこの人は認知機能の低下が出てきているという情報が、こういったところの皆さんに伝わって関わっていただくことで認知機能の低下を遅らせていただくことができるのではないかと、悲惨な交通事故も減らせるんじゃないかというふうに思いました。私は自動車教習所で認知症検査を受けるよりも、専門医の先生に検査を受けてよかったとつくづく思っております。</p> <p>また、あしたの体操が本当にいいと思っています。先ほどいただいた資料もですが、カラオケとか歌を歌う時、今までは歌詞カードどでしたけれど、これからはきっとスマホになっていくと思うんです。そのスマホの使い方をマスターするとか、スマホの使いかたがちゃんとできるのであれば、認知機能の低下も抑えられるんじゃないかと思えます。それというのは、相談方法の中で、相談方法の内訳がメールがもう3倍になっています。ですから、年をとると感動するとか、刺激を外部から受けるっていうのが絶対に必要だと自分自身で思います。マイウェイノートも冊子が紙ではなく、ダウンロードできるということを強くPRすることも必要だと思います。</p> <p>私が高齢者になり、認知症になるかどうかわかりません、介護を受けるかどうかわかりませんが、皆様にお世話になっていくんだということをつくづく感じました。長い話になり申し訳ありません、皆様にお世話になることがつくづくありがたいと思っている次第です。</p> |
| 委員（会長） | <p>ありがとうございます。介護相談員について、先ほど活動がまた活発になってきたというお話でしたがどうでしょうか？</p> |
| 委員 | <p>介護相談員も、コロナが明けてから訪問させていただく事業所も増えてきました。令和5年度から6年度にかけて4施設増えて、今40施設を訪問させてもらっています。相談員の活動件数も1人3～4施設、ほぼ4施設ひと月にまわらせていただいています。</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>訪問しても、以前は玄関ホールとかそういうところに来ていただいてお話をするという場面が多かったのですが、最近では施設の中に入れてもらって直接利用者さんと一緒にお話をしたり、時には施設によってはホールで皆さんの活動されているときに一緒に入れてもらってお話を全体でしたりもしています。訪問する件数が増えるというのはちょっと負担ではあるのですが、4～5施設をまわっていたこともありましたので、今が限界かなと私は思っています。</p> |
| 委員（会長） | <p>ありがとうございました。介護相談員さんは市民の方がそうやって施設をまわっていただいて、利用者の方のお話を聞いていただくという大変貴重な活動で、高島市はすごく活発に活動されているんじゃないかなというのが私の印象です。全国的にはあまり活動がない地域もありますので、いつも活発に活動していただいているなと感じるところです。</p> |
| 委員 | <p>施設も介護相談員さんに来ていただいてお世話になっています。コロナ禍が明けて、去年あたりから来ていただいて、相談員さんが来られたら、利用者さんみんなこぞってお話をされているので、非常に貴重な時間だと思っていますし、普段利用者さんの話をゆっくり聞けないなと気づかされることがあります。介護相談員さんが2人で来て下さっていたのですが、今年から1人になっていて、少し寂しく思っているのと、2人で来ていただくとゆっくり話を聞いていただけるので、施設としては非常にありがたい事業だと思っていますし、ぜひ前のようにお2人で来ていただけるような体制を作っていただけるとありがたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>大事な事業ですので、行政もしっかりとバックアップしていただければと思います。そうしましたら、全体としてでも結構ですので、山本委員何かご意見あればお願いします。</p> |
| 委員 | <p>地域包括の皆様には本当に地域支援事業、すごくたくさんの方があって本当に頭が下がる思いです。6～8年前までは介護認定員をしていたのですが、そのころの終わりぐらいに要支援の方をどうするかという問題が出てきて、国の方も少しでも要介護になることを食い止めようと、サービスBやサービスCなどが出てきたと思うのです。今こうやって聞かせていただいたら、すごく沢山の委託事業もあって、要支援の方に対してすごく手厚く頑張ってサービスをしておられると思います。せっかく沢山の事業をしたのだから、要支援の方が要介護になるまでの期間がどのくらい伸びたとか、そんな統計もあってもいいんじゃないかと思っています。介護認定の認定期間が、私が認定委員していた頃に比べたら、ずいぶん伸びていて、半年に1回再認定していたのが、今は3～5年になっていると思います。区分変更するというのに勇気のある方々がいるのは事実だと思います。</p> <p>私が認定委員をしていたころの要支援の方が要介護になるまでの期間と、今の方が要支援から要介護になるまでの期間というのはどのくらい違うのかというのを、統計的にできたら、それを宣伝材料にして市民の方に知らせるというのも一つの方法ではないかと思います。そんなことをしようと思うと、また膨大な資料を出さないといけないだろうし、大変だとは思いますが、もしできるならしてみてもいいかなと思います。</p> |
| 委員（会長） | <p>貴重なご意見ありがとうございます。地域支援事業の効果ですね。先ほども申し上げたのですが、健康寿命が長いっていうのも、高島市の一つの特徴ですし、地域支援事業をやっているから効果が出ているというのもできたらいいのではないかなということですね。地域包括支</p> |

| | |
|---------------|--|
| | 援センターですというよりは、必要なチームを作って外部の研究所とかがやっても面白いのかなと思いました。 |
| 委員（高島健康福祉事務所） | 市民の皆様の健康や生活のために日々ご尽力をいただいております、ここにお集まりの皆様、それから高島市の皆様、またあいりんつむぎ地域包括支援センターの皆様方、高島・安曇川地域包括支援センターの皆様にご心から敬意を表するところでございます。私どもは直接住民の方にお付き合いをさせていただくという事はあまりなくて、基本的には住民の皆様と直接密接に関わる高島市さんの支援というところが役割分担かなというふうに考えております。ただ、あまり密接に関わっていないということで、直接どういう役割を果たせばいいのかというのが実際のところ具体的にはわかっていないという部分は多々ございます。その意味では、今非常にご尽力いただいている皆様からは、姿が見えない、何をしているんだろうというような事があるかもしれません。こういう機会でも何かございましたら、ご要望なり、お声がけなりしていただければもちろん、できることできないことというのはございますが、できる限りのことはさせていただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 |
| 委員（会長） | ありがとうございます。県のほうとも連携して進めていくことが大事だと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。 |
| 委員 | 人口が減少し、高齢化が進む中でこういう包括の活動はとても大事なことだと思いますので、どんどん進めていただけたらと思います。 |
| 委員（会長） | ありがとうございます。引き続きまたご参加のほうよろしくお願いいたします。副会長から何かご意見ありますか。 |
| 委員（副会長） | 日頃から地域包括支援センターの方々との協力なしには、本当に対応が出来なくて、大変お世話になっている機関でもあります。地域包括支援センターも地区ごとに設立されたということで、相談業務でのメリットはあると思います。ただ社会全体が変化していく中で、相談内容もかなり複雑なケースもあって、私自身もそれは感じてますし、本当に大変になってきていると思います。その複雑なケースを追っていただいて、ケアマネに繋いでいただくこともあると思いますが、本当に解決することができないようなケースがあって、介護保険サービスどころではなくて、そもそもの生活の立て直しをどうしたらいいのかということも結構あります。本当にこれでよかったのかという無力感を感じる事もあります。包括の皆様も感じるころもいろいろあるのではないかと思います。包括支援センターはもうひとつのチームメンバーというか、そのように感じていますので、また今後ともよろしくお願いいたします。 |
| 委員（会長） | 複雑化、複合化した課題っていうものが増えてきて、担当分野だけでっていうのも難しいケースが増えてきているんじゃないかと思うので、分野を超えていろんな意味でチームになって支援していくのが大事なのではないかと思います。 皆様に活発に議論していただきまして、本当にありがとうございます。以上で予定の議題については全て終了いたしました。事務局の方にお返ししたいと思います。 |

4. 副会長挨拶

5. 健康福祉部長挨拶